

## 第1期 小郡寺子屋「志学舎」報告書【第7講座】

開催日 2022年9月3日（土）

● 時 間 9:30～16:30

● 場 所 小郡市生涯学習センター（小郡市大板井）

● 参加者

■第1期生16名（欠席なし）

■木村 貴志 塾長 ／森 就子（事務局）／井上 和樹（事務局）／西山 茂代（事務局）

● 内 容 第1回経営者講話

9:30～10:50 萩合宿振り返り・感想レポートコンテスト採点

11:00～12:00 少年教育10原則・論語朗唱、『大人になる』とは

12:00～13:00 昼食（お弁当）

13:00～14:10 感想レポートコンテスト表彰式、『聞く力・読む力・話す力』

14:20～15:55 将来について

16:05～16:30 本日の振り返り



■萩合宿振り返り・感想レポートコンテスト採点

○解散式の時に流したスライドショーをもう一度鑑賞

＜振り返ってみて改めての感想＞

- ・合宿はついこの間あったが、昔のように感じた。
- ・合宿中はふざけすぎていたと思う。
- ・合宿はとても楽しそうだった。

○感想レポートコンテスト

塾長が5つのレポートをあらかじめ選定し、塾長・塾生・スタッフ全員で採点

塾長が読み上げ、塾生はレポートに気付いたことを書き込んだり、アンダーラインをひいて採点

【評価ポイント】

- ①文章の組み立て②自分の考えが記載されているか③具体的に記載されているか
- ④読みやすさ・分かりやすさ⑤敬語表現・文末表現

＜塾生感想（ほかの人のレポートを読んで）＞

- ・いろいろな考え方が書いてあった。
- ・どのレポートも具体的に記載されていて、順位を決めるのが難しい。
- ・自分の考えがしっかり描いてあった。合宿で学んだことがまとめられていて良いと思った。
- ・それぞれのレポートに個性があり、真似してみようと思った。

■少年教育10原則・論語朗唱

○少年教育10原則朗唱

1. ウソ、ごまかしをしない。誰が見ていなくても、「お天道様」が見ている。  
⇒自分に対して、ウソ、ごまかしをしていないか。
2. 自己責任とは。人のせいにしない。自分の判断力と決断力を持とう。  
⇒自分自身が何をするのか。



3. よく働き、よく学び、よく遊ぶ。良い競争心を持とう。

⇒切磋琢磨して、お互いに高めあうことが必要。

4. 感謝心を持とう。

⇒感謝心をもつことはとても大切。

5. 人に迷惑をかけない。良いマナーを持とう。

⇒迷惑をかけていることに気が付かないことが多い。

相手の立場に立つこと。じっとしていても気づかない。

6. 自分に厳しく、人に寛大に。

⇒自分に甘い人は本当にかっこ悪い。

7. 人のためになろう、国のためになろう、世界のためになろう。

⇒誰かのために、人のために何かすることは、その先に日本のため、世界のためになる。

8. いつもユーモアの心を持つ。

⇒人を楽しませる、自分が楽しむことも大事。

9. 人をタイトルや外見や名前や住んでいるところで見るとではなく、いつもその本人で見よう。

⇒肩書や外見で人を見ず、その人本人を見よう。

10. 国際人とは何かを考えよう。

⇒自分の国のこと知る必要がある。

#### <塾生感想>

- ・国際人になることが難しそう。外国の友達もいるが、人のことを考えてられないので、気を付けていきたい。
- ・人のためは今は無理だし、大人になってからできるようになるのか不安。
- ・人を肩書で見ないというのが難しそう。社長とかに注意したら警察とか呼ばれるかもしれないから。
- ・ウソ、ごまかしは自分が怒られないためにするものなので、難しいと感じた。

#### ○論語朗唱

【塾長より】今は意味が分からなくても、人生の場面でいつか思い出すことがある。



#### ■『大人になる』とは

塾長が書いた新聞記事「人を大人たらしめる教育の不在」

(H30. 7. 11 産経新聞)

「学より徳に入るは平地より高山に上るがごとく、徳より学に入るは山頂より麓に下るがごとし。

品性は人の主なり、学は人の僕なり」(新渡戸稲造)

※学問(知識)から道徳(人間性)に到達するのは、とても険しい山を登くくらい困難だが、道徳から学問を得ることは、山頂から平地に下るくらい容易なことだ。人間の本質は品性であり、学問や知識は道具にすぎない。

#### <塾生感想>

- ・人として立派になる勉強は学校ではしていないと感じた。
- ・本を読むことは大事だと感じた。
- ・嫌なことから逃げていると、立派な大人になれないと感じた。
- ・子どもの時から難しい本を読むことが必要だと思った。



## ■感想レポートコンテスト表彰式

- ・第1位 Aさん(172点)

【評価点】合宿全体を振り返って、3点に絞って書かれていた。  
また結論がしっかり書かれていた。

- ・第2位 Bさん(138点)

【評価点】Bさん独自の視点で、レポートが書かれていた。

- ・第3位 Cさん(90点)

【評価点】内容が生き生きと、表現力豊かに書かれていた。



## ■『聞く力・読む力・話す力』

○「AI時代になぜ、「聞き取る力」「読み取る力」が大事なのか？」(新井 紀子氏の雑誌記事)

- ・今後「勝つ企業」となるには、「きちんと読める」「きちんと書ける」「きちんと話せる」というコミュニケーションに関して、ミスがないことを最低条件に採用活動することが重要。
- ・読解力がある人間は、どんどん勝手に新しい知識を吸収できる人間。だから、変化に対する恐怖心がないため、柔軟な発想ができる。
- ・読解力をつけるうえで、絶対に必要なのが「リアルで具体的な渴望感」や「お金が足りない」という体験。リアルな体験に基づいた「読み取る力」「聞き取る力」があるかで、仕事の成果は大きく作用される。

### 【塾長より】

この記事を書いたのは、AI等最先端の技術を研究している人。そのような人がこれからの時代に「リアルな体験」に基づいた「読み取る力」「聞き取る力」が必要だと説いている意味を考えてほしい。

\* 記事中に出てくる「リーディングスキルテスト」の一問。

「メジャーリーグ選手のうち28%はアメリカ合衆国以外の出身の選手であるが、その出身国を見ると、ドミニカ共和国が最も多くおよそ35%である。内訳を表す円グラフとして適当なものはどれか」

あるテレビ番組での東大生の正答率は、52%でした。(中学生12%、高校生28%)

○「人を動かす人は、どんな「話し方」をしているのか？」(御立 尚資氏の雑誌記事)

- ・「自分の言いたいことをできるだけ簡潔にまとめる力=意見の結晶化力」を鍛えることが必要。  
欧米では、自分の意見を簡潔に伝えられるかどうかが人物評価の重要なポイント。
- ・「意見の結晶化力」を鍛えるために、自分が言いたいことを五つくらいに絞り込み、それをA4用紙一枚に小見出し用に一行ずつ書いておくこと(ブレット・ポイント)を実践した。欧米人はミーティングやスピーチの前に必ずこれをつくっている。
- ・ブレット・ポイントをつくる時は、まず書くことを意識するのが基本中の基本。  
最も重要なのは「メッセージとデータを分ける」ということ。
- ・短く簡潔に伝えるには、「イメージ・ワード」をうまく使えるようになること。  
「イメージ・ワード」を使いこなせるようになるには、詩や小説、エッセイなど「素晴らしい日本語」や、論理、感性両面で良質なものにたくさん触れることが必要。

### 【塾長より】

- ・相手がいることを論理面・感情面の両面で考える。
- ・箇条書きをすることは、頭の中を整理すること。

- ・世界で活躍している人も、話すときはロジックツリーと同じようなことをやっている。
- ・良質な文学に触れるのを大事にしたい。読書の大切さは大人になっても響くもの。

#### ○「むく鳥のゆめ」「幸福な王子」（塾長朗読）

【塾長より】知らない言葉、わからない言葉はその場で調べるのが大事。

#### <塾生感想>

- ・どれだけ頭が良くても、聞く力・読む力がないとだめだと思った。
- ・日常生活の中で手伝いとかがないと工夫することができないと感じた。
- ・新しい言葉がわかるかわからないかで、どれだけの迷惑をかけるのかが分かった。
- ・人と話すときに比喩を使うことがないので、比喩を使ってみようと思う。
- ・詩や小説を読んで、「イメージ・ワード」を使ってみたいと思った。

### ■将来について

#### ○志とは何か？

- ①夢：語源は「寝目」（いめ）。私的なものから公的なものまで幅広く使う。

思いつきでも言える。儚く消えることも多い。

- ②ビジョン：具体性、計画性がある。数字が入る。

- ③志：語源は「心指す」。人々のため、社会のため。考え抜いた信念。

- ・松下政経塾「政治家になるのが夢。じゃあ政治家になったら夢もおしまいですね。」

#### ○資料「教育界のチェンジメーカー 人が育つ環境を変えたい」（中原 健聡氏インタビュー記事）

- ・スペインのチームメイトが「自分は何のためにサッカーをしているのか」をよく話しており、サッカーは実現したいビジョンや解決したい社会課題のためのツールとして考えていたことにとても驚いた。
- ・一方、日本の子ども達は18歳時点の「自分の偏差値」にフォーカスした回答や大学生からは「就職したい」といった、「何のために」ではなく行動だけを回答してくることが多い。
- ・日本の子ども達は「自分の人生だ」という覚悟のような希薄だと感じられた。自分の人生に当事者意識を感じられない状態や、どこか他責な態度に違和感を抱いた。

#### ○どうすれば志をたてられるのか。

- ・「橋本左内に学ぶ志が立つとき」①読書 ②師友 ③逆境 ④感激

#### ○目的・目標を持つ大切さ

- ・目標があるから①進む方向②進む手段・方法③時間④金額⑤その他が決まる。

目標がなければ、進む方向は定まらないし、進む方法も選択できない。

#### ○自分年表・マンダラチャートの作成

- ・年表では、自分がいつまでに何をしたいかを書いていく。
- ・マンダラチャートでは、真ん中に自分が何をしたいのか（目標）、その周りに目標のためにやるべきことを書いていく。

#### ○映像資料視聴

【塾長より】

- ・自分のやりたいことが見えていない人が多い。
- ・頭の中に自分の将来を置いておくことが大事。
- ・時間は限られているので、早めに考えることが必要。
- ・早い段階で自分の人生は自分のものとの意識を持つことが大事。
- ・やりたいことという答えを出すのは時間がかかるが、自分で決めるしかない。
- ・聞く、書く、話すことが大事





## ■本日の振り返り

＜本日の研修で印象に残ったこと＞

- ・今日の研修は全体的に高度な内容だったので、復習しないといけないと思った。
- ・御立さんのようにバシッと決まった話し方をしたい。（スピーキング力を上げたい。）
- ・新井さんの記事の問題を間違えたので、自分はまだまだだなと感じた。
- ・将来の夢がたくさんあるので、一つにまとめていきたい。
- ・夢について、考えを深めるのが難しかった（年表・マンダラチャート）
- ・論語抄に書いている内容を少しずつ理解していきたい。
- ・夢が決まっていないので、どんな仕事があるか調べてから考えていきたい。
- ・このままではいけないと思って大人の人が記事にしているので、自分たちで変えていかないといけないと思った。

## ☆当日の様子①（お昼休み）



## ☆当日の様子②（感想レポートコンテスト表彰式）

